

令和4年度 稚内中央小学校経営方針

1. 学校教育目標 (平成21年3月改正)

- かしこい子
- 思いやりのある子
- たくましい子

校訓 まこと

明治42年8月制定

2. 本年度の重点目標の設定にあたって

令和3年度は、引き続きコロナ禍の中で、学びを止めず、子どもの学力保障を最優先させながら、日々計画を見つめ直し、感染対策をした上で、できる教育活動を進めてきた。

その取り組みの基盤にあるのは、やはり学校教育目標の具現化であり、その具現化を図るために、めざす学校像、めざす子ども像、めざす教師像を掲げ、学校課題を「主体的に考え、ともに深めあう未来を生きる子どもの育成」とし、重点目標を「みんなの力あわせで、一人一人の学ぶ意欲・喜び、確かな学力と、豊かで逞しい心、大きな自信を育てる。」としながら、保護者・地域、そして教育関係者の支援を得て、このような中でも、輝く中央小っ子育ちに取り組んできた。

その具体として、一つは、授業改善であり、全ての子ども達に学ぶ意欲・喜びと学習内容の確実な定着のため、「わかる・できる」を実感させる授業づくりの工夫や改善に取り組んだ。特に、授業におけるタイムマネジメントを確立させ、見通しをもたせる発問や課題設定、しっかりと定着させるための「まとめ」「振り返り」の時間の確保することに力を入れながら、学習の基盤である授業規律（中央小の「まこと」）を徹底すること、タブレットの有効活用した楽しみながらできる授業の創造、これまで積み上げてきた中央小式「学び合い」を大切にしながら授業づくりを通して、落ち着いた学習環境の中で、子ども達の「主体的、対話的で、深い学びのある授業」に取り組んできた。更には、家庭学習キャンペーン等を通じた家庭学習の推進、低学年からの放課後学習（花丸教室）、ぐんぐん塾での支援体制にも取り組み、基礎・基本の確実な定着と学習内容の補充を通して、子ども達の学ぶ意欲や喜びを育てる教育活動が進められてきている。

もう一つは、豊かで逞しい心と大きな自信を育てる取り組みとして、話し合い活動を通して自分の学校を更に良くしようとする取り組みや、行事等での新しい挑戦を通して、上級生のリーダー性や子ども達の豊かな心育ちをめざした取り組みが進められ、失敗しても諦めず、粘り強く最後まで取り組もうとする子ども達の姿をめざしてきている。

このような取り組みの中で、本校の子ども達の実態を見ると、学習面では、基礎的な力の定着が見られる反面、聞く力、読み取る力、自分の考えをまとめて伝え合う力に弱点が見られること。学力の二極化があり、個別最適な学びと協働的な学びを通じたより一層の支援が必要であること等が大きな課題となっている。

生活面では、多くの子ども達が、毎朝元気に登校し、明るい笑顔で楽しい学校生活を送っており、特に児童会書記局を中心とした意欲的な児童会活動や学校を更に良くしようとする高学年の前向きな姿が、学校を良くする大きな原動力になっている。しかし一方で、生活に課題を抱えている子ども達も見られ、家庭との連携を通じた家庭の教育力育ちにつながる様々な支援や改善の取り組みが必要であることも大きな学校課題となっている。

また、メディア使用については、高学年のみならず、このコロナ禍の中で低学年から長時間使用する課題も顕著に見られるようになり、今後は更に、中央小メディア使用「3つの約束」を家庭との連携の中で徹底し、勉強時間の確保・定着、ゲーム・テレビの時間の見直し・改善、早寝早起き、十分な睡眠をしっかり考えた、規則正しい生活リズムの確立が急務であると考えている。

このような学校経営における成果と課題を踏まえながら、北海道教育行政執行方針および宗谷管内教育推進のテーマ「子どもの未来保障 OVER70」を学校づくりの基盤とし、今年度は、今ある『中央小の教育』を見つめ直し、本校の子ども達の実態を踏まえた教育課程づくりと、これからの規模（児童数・教職員数）やコロナ禍にある学校の姿、また将来の義務教育学校につながる9年間を通じた新しい学校の姿を検証そして改善へと進めることが求められている。そして、学校や地域の主人公である一人一人の児童が更にかっこよく輝く中央小学校、信頼され期待される中央小学校を築いていくことが必要であると考え、以下のような学校経営方針を示し、これに基づいた学校経営を全教職員の力あわせで進めていきたい。

3. 学校経営のMVP(MISSION・VISION・PLAN)

【ミッション】 「子どもの未来保障 OVER70」に向け、教育目標の具現化を図る。

■かしこい子（自ら学びかしこい子どもの育成）

これからの予測不可能な時代を生き抜くためには、「主体的、対話的で、深い学び」を通して、自ら考え、判断し、自ら解決できる力を育てることが必要である。そのためには、全ての子に「わかる・できる」喜びを育て、意欲を持って取り組める授業改革に積極的に取り組みながら、子ども達一人ひとりが確実に基礎基本を身につけ、その身につけた力で新たな課題に挑戦し自らの力で乗り越えられる場面づくりが必要である。

これまでの取り組みを基盤としながら、中央小学校での6年間の教育活動を通じて、将来につながる生きる力の育成をめざした基礎・基本の確実な定着と、自ら学ぶ意欲を高め、学んだ知識を知恵として生活に活かす力、他との関わりの中で自らをよりよく表現し、自分の考えを伝え合う力を育成する。

■思いやりのある子（心豊かで思いやりのある子どもの育成）

夢の実現のため、新しいことに挑戦する心と、その中から生じる失敗を恐れず努力できる逞しさが必要であると考え。また、子ども達同士の関わり合いを通して、他者との正しい関わり方の形成が必要である。このことから、いろいろな挑戦をし、仲間とともにやり遂げる経験と人との関わり合いを通して、最後まであきらめない心、仲間を大切に力あわせをすることの大切さを実感させながら、いじめのない、思いやりの心に満ちた、好ましい人間関係づくりを進める。

■たくましい子（健康で心身ともに逞しい子どもの育成）

充実した学校生活を送るためには、基本的な生活習慣の形成と合わせて、正しい食生活の形成や丈夫な体を作るための健康的な生活が必要である。各家庭との協力を得ながら、規則正しい生活リズムの定着、体力づくりの取り組みや、正しい食生活の基礎づくり一層充実させ、子ども達一人ひとりが自分の健康を意識し、丈夫な体と粘り強く頑張りきることのできる逞しい心と体の育成を進める。特に課題である持久力の育成に向けた日常的な取組を進める。

【ビジョン】 「つながりあい、学び合い、笑顔あふれる学校」の創造

(1) 求められる学校像

夢のある学校・・・楽しく分かる授業 魅力ある学校行事 目玉となる特色ある教育
活力のある学校・・・学校研究・稚教研における研究活動 積極的な授業公開 頑張りの発信
信頼のある学校・・・学校評価システムの充実 学校公開と説明責任 保護者・地域との連携

(2) 求められる児童像

夢を持ち、夢に向かって根気強く新しい挑戦ができる子
善悪の判断ができ、友だち、上級生下級生との関わりを通して、思いやりや優しさをもった子
明るく元気よくのびのびと、自分の思いを正しく表現し、輝き活躍できる子

(3) 求められる教職員像

子どもの変化に気づき、悩みに耳を傾け、カウンセリングマインドを持って指導できる教師
豊かな感性で、子どもの長所を伸ばし、夢の実現のために楽しく分かる授業を創造できる教師
保護者・地域とのつながりを大切にし、学校に対する思いを謙虚に受け止め、
力あわせで子育てに力を発揮できる教師

【プラン】

1. 本年度の学校経営の位置づけ

(1) 北海道教育行政執行方針

1. ウィズコロナ・ポストコロナにおける新たな学びの創造
2. 生涯を通じ、個性が輝き、豊かさを実感できる教育の推進

3. 北海道への誇りと愛着を持ち、未来を切り拓く人づくり

(2) 宗谷管内教育推進の重点 (テーマ)「子どもの未来保障 OVER70」

(重点) 資質・能力を確実に育成する学力保障
～ OVER70 の実現 ～ 12年間継続する学力保障

1. 授業改革～資質・能力の確実な育成に取り組む。
2. 学校経営～教育課程を決める。
3. 検証改善～OVER70を実現させる。
4. 働き方改革～学校本来の役割を進める。
5. 小中高12年～小・中・高の連続性・継続性を追求する。

(3) 本校の学校課題

主体的に考え、ともに深めあう、未来を生きる子どもの育成

1. 児童や家庭の実態(課題)を踏まえ、一人一人の力を伸ばす中央小教育課程の推進
2. 全ての子に、未来に生きる大きな自信(自己肯定感)を育てる教育活動の推進
3. ウィズコロナ・ポストコロナにおける教育活動(PTA活動を含む)の工夫・改善

2. 本年度の重点目標、及び経営の柱

上記(道および宗谷管内)の方針に則り、施策の理解と、併せてこれまでの成果と課題を踏まえ、保護者・地域(北地区)、教育関係者みんなの力をあわせて中央小の子どもを育てるという意識を大切にしたい、めざすべき方向を示す経営の重点及びその柱を、次のように設定した。

**みんなの力あわせて、一人一人に、自ら学ぶ意欲・喜び、
確かな学力と豊かで逞しい心、大きな自信を育てる!**

～みんな「ま」まじめに、「こ」こつこつ、「と」とりくみ、自信と笑顔あふれる中央小っ子育ちの実現を～

- (1) 児童の実態や、令和3年度の実績を踏まえた教育課程編成とその実施を通して、一人一人の学ぶことへの意欲を高め、基礎・基本の確実な定着のための時数配分の工夫、余剰時数の効果的な活用、まとめや振り返りを重視したタイムマネジメントの導入等、積極的な授業改革を進め、自力解決できる基礎的实践力とその学年に必要な学力の育成・向上に取り組む。
- (2) 指導方法工夫改善加配、算数専科加配、および退職人材活用事業等を活かし、一人一人に確実な力を育て、未来に活かせる確かな学力を育てる。
- (3) コロナ禍における学校行事、児童会活動の見直し・改善を図りながら、その中であっても児童の新しい挑戦とやり遂げた経験を通して、「やればできる」喜び・大きな自信、感謝と思いやりの心、そして自分の学校を良くしようとする心を育て、大きく輝く児童集団に成長させる。
- (4) 総合的な学習の時間等の見直しを進め、中学校との系統性や系列性を考えながら、特に、ふるさと稚内の自然や文化、産業を学び、体験や発信する活動を通じて、ふるさとに自信と誇りを持ち、未来の稚内を明るく元気にする地域の主人公に育てる。
- (5) 学校と家庭の役割の発揮、および連携を大切にしたい健やかな子どもを育てる活動や、懇談会等での学び合いを通じて、教師育ち・親育ちを進める。
- (6) 幼保小中の連携を通じて、幼保から小学校へつながる効果的なスタートキャリアラムの実施と、小学校から中学校へつながるスムーズな移行ができる指導の接続・継続を図るとともに、R8年度からスタートする義務教育学校の開校に向け、稚内中学校との連携を密にした9年間を考えた教育課程づくりに着手し、地域における学校としての機能が最大限生かせる校舎設計や開校までのタイムスケジュール等、移行に向けた検討を進める年にしたい。
- (7) 教育の質の向上、特に子ども達の資質能力の育成、そのための授業改革に充てる時間を充実

させるため、業務分担や業務改善、働きやすい職場づくり等の働き方改革を進める。

3. 課題解決のための具体的方策と指導の重点

ウィズコロナ・ポストコロナに、みんなの力あわせて進める「中央小の教育」の充実を図る

WCSビッグチャレンジプラン2022

～笑顔輝くカッコいい「中央小っ子」育ちをめざした中央小チャレンジプランに取り組む～

学力向上編

1. 学習規律「中央小のまこと」を身につけ、落ち着いた学習環境を創る。

～低学年から高学年まで、落ち着いた教育環境で授業が行われるように、学習規律の定着を進めます。

2. 「わかる・できる」喜び・意欲・自信を育てる授業改革に取り組む。

～『5つのポイント』、特に「まとめ」「振り返り」に力を入れ、子ども達とおしの「学び合い」を通して、一人一人に「わかる・できる」喜び、自信、そして次に向う意欲と確かな学力を着実に育てます。

3. 「学びタイム」の活用、「Sサポート」「Sトライ」等への挑戦で学習内容の定着を図る。

～「学びタイム」の活用や「チャレンジテスト・Sサポート問題・Sトライ問題」等への積極的な挑戦と、間違った問題への繰り返しの挑戦で、基礎基本の確実な定着とできた喜びを育てます。

4. 家庭学習の定着と内容の充実を図る。

～「家庭学習メニュー」の活用や「家庭学習キャンペーン」の実施、そして家庭との協力で、子ども達の家庭学習の習慣化と内容の充実を進め、自主的に学習に向かう姿勢を育てます。

5. 「ふれあい期間」等の教育相談活動を通じて、子ども達の意欲向上に努める。

～一人一人の子ども達と話す時間や、「ふれあい期間」でのご家庭との教育相談活動を通じて、児童理解を深めながら、一人一人の良さを引き出し、更に伸ばし、意欲の向上につながる指導を積極的に進めます。

心体向上編

6. 中央小『3「あ」運動（あいさつ・あんぜん・ありがとう）』を推進する。

～挨拶運動、感謝の気持ちを表す活動等を通じて、一人一人の豊かで優しい心を育てます。

7. 元気に過ごすための「生活リズム」「体力づくり」に取り組む。

～ご家庭との協力で、規則正しい生活リズム（早寝・早起き・朝ご飯）を確立するとともに、メディアの使い方「三つの約束」、自力での登下校、および体育や休み時間での体を動かす活動等を通じて、逞しい心とコロナにも負けない元気な体を育てます。

8. 児童会活動等における話し合いを通じて、自ら考え実行できる力を育てる。

～自分達で考え、判断し、実行できる力を育てると共に、集団性や自主性、自治の力をはじめ、生きていくために大切な感謝と思いやり、認め合う心、最後まであきらめない心を育てます。

9. 小中とつながる「キャリア教育」「ふるさと学習」に取り組む。

～小中とつながるキャリア教育・ふるさと教育に取り組み、未来の稚内・北地区を背負って立つ子ども達を育てます。

10. 新しい学校づくりに向けた、学校間連携、家庭・地域との連携を充実させる。

～義務教育学校開校（令和8年度開校予定）に向け、9年間を通した子どもの成長をめざす教育計画づくりに取り組みながら、将来の北地区の学び（活動）の拠点となる稚内中央小学校づくりを進めていきます。

- * 「WCSビックチャレンジプラン」「中央小グランドデザイン」の提示と、検証改善サイクル（P D C A マネージメントサイクル）の確立により、確実な学習内容の定着と豊かなで逞しい心の育成を進める。
- * 恵まれた地域資源（保護者協力、関係者支援、地域ぐるみの子育て運動推進地域等）を最大限生かしながら、子ども達の夢への挑戦と実現をめざした「中央小でしかできない」教育活動を力あわせで推進する。
- * コロナ禍にあってもできる特色ある教育活動を推進し、自校に対する自信と誇りを育てる。
- * 宗谷の学力保障プラン（三つの柱・二つの重点）の目標及び目標指標の達成と、学力向上をめざした「5つのポイント」の積極的な導入等の授業改革を進め、ショウトスパンでの検証（評価・改善）を進めながら、全教職員一致（共通認識と力あわせ）による、未来に生きる子ども達の育成（未来保障）と中央小教育の更なる充実を図る。

○ 「かしこい子」を育てるために

→ OVER70 を実現する授業改革に取り組む。

①一人一人の学習面での意欲・喜びとその学年に必要な学力を確実に身につけさせる授業改革に取り組む。

- 宗谷の授業改善「5つのポイント」、特に「まとめ」「振り返り」を重視した授業、「中央小式学び合い」を効果的に取り入れた授業の改革を進めながら、一人一人が意欲的に参加できる『主体的・対話的で深い学び』のある授業等、『わかる・できる』喜びや一人一人の学ぶ意欲を育てる授業を創造する。
- 「Sトライ・Sサポート」、「チャレンジテスト」等の取組を進めに、その採点・分析で見える児童の弱点を掴み、共有しながら、授業だけでなく、「学びタイム」・家庭学習を通じて課題克服を進める。
- 中央小の「まこと」を共有し、全ての学年で授業規律（学習のきまり）や学び方、教科の基礎基本等、学習の基盤となる力を確実に定着させ、6年間継続した学ばせ方に取り組む。
- 指導方法工夫改善加配教員の活用により、高学年の子ども達の実態を考えた TT および習熟度別授業等の指導方法の改善により、一人一人に学習内容の確実な定着を図るとともに、時間講師、支援員との連携・協力を進めながら、個々の課題や実態に応じた個別最適な指導・支援体制の充実を図る。
- I C T 機器・タブレットの日常的かつ効果的な活用を取り入れた授業づくりを検証しながら、一人一人の「わかる・できる」を引き出し、学力の定着と学ぶ意欲の向上に努める。
- コロナ禍における学びの保障や、学校に登校できない子達への学びの保障に向け、オンラインでの学習ができる環境と体制づくりを継続発展させたオンライン学習を推進する。
- A L T をはじめ外国語補助員との連携・活用を図り、教師の指導力向上をめざすとともに、子ども達の外国語に対する興味や関心を引き出し、着実に学力を育てる指導体制を確立する。

②学力定着の為の検証改善システムの構築と学びのサポートの充実を図る。

- 月ごとおよび単元ごとの評価システムを確立し、よりきめ細やかな学習評価サイクルを実施しながら、弱点把握と弱点回復を目指した学習の実施、学習内容の定着のためのシステムを確立し、指導にあたる。
- 低学年向け放課後学習「花丸教室」の実施および中学年「ぐんぐん塾」への協力、高学年の放課後学習の実施により、学習内容の補充・定着と次の学習に生かせる取り組みとして充実させる。
- 「家庭学習メニュー・手引き」の活用、「家庭学習キャンペーン」のより効果的な運用を通して、家庭学習の定着と内容の充実を図り、普段の授業に生かされる基礎的な学力の定着に努める。
- 学校図書館支援員との連携を通して、図書室の利用促進を図りながら、子ども達の読書への興味・関心を高める取組や、家庭、幼保とも連携した読書の取組や読み聞かせ（ボランティア）の取組を推進しながら、読む力・読み取る力の育成に取り組む。
- 新規に加配された、算数専科加配を有効に活用させ、算数の専門的な指導方法を学び合うとともに、子ども達に算数における学ぶ力の育成と確かな力の定着を進める。

○ 「思いやりのある子」を育てるために

③一人一人の大きな自信（自己肯定感）を育てる教育活動を推進する。

- 3「あ」（あいさつ・あんぜん・ありがとう）運動・「中央小ABC（あたり前のことを、馬鹿に

しないで、ちゃんとやる)」の日常的な指導の継続を進める。

- 児童会活動（自治活動）、学級活動等を通じた話し合い活動やウィズコロナ・ポストコロナに対応した子ども達同士の関わり合いを創造し、それを通して自律の力・自治力を育むとともに、互いの良さを認め合い、励まし合い、更に良いものを創造しようとする集団づくりを進める。
- 新しい挑戦と諦めず最後までやり遂げる経験を通して、自分自身の大きな自信を全校児童一人一人に育てる取り組みを充実させる。
- 道徳教育、人権教育の充実により、全ての児童がいじめを絶対に許さないと答えられる環境づくりと学校不適應の防止・早期発見・早期対応に努める。

④特別支援教育（支援を必要とする子ども達・家庭）への理解と適切な支援を進める。

- 障がい理解、合理的配慮・UDの推進を図る、教育環境づくりや授業づくりを進める。
- 校内特別支援委員会の機能を充実させ、組織的な対応と児童支援ができる体制づくりを進める。
- 「ふれあい期間」等の機会を積極的に活用した家庭との相談活動をはじめ、子ども達一人一人との相談活動（寄り添う場面）を定期的に行いながら、日々の心の変化や困り感に対応できる相談機能の充実を図る。

⑤ふるさと稚内への自信と誇りを育てる『ふるさと学習』・『キャリア教育』を推進する。

- コロナ禍を考えた「総合的な学習の時間」等の持ち方の工夫や内容を精選し、中学校とのつながりを考えた中で、稚内を知り（学び）、体験し、発信する活動へと系統化・系列化を図る。
- 地域学習・ふるさと学習（地域の産業や文化、歴史等々を学ぶ）を積極的に進めながら、その系統化、系列化を進めるとともに、中・高へとつながるキャリア教育を推進しながら、自分のふるさとの良さを見つけ、ふるさとを大切にし、ふるさとに誇りを持つ豊かな心育ちを推進する。

○「たくましい子」を育てるために

⑥家庭と連携した基本的生活習慣の確立とメディア教育の推進を図る。

- 家庭との連携や幼稚園・保育所との連携を強めながら、望ましい基本的生活習慣・学習習慣・運動習慣の定着と充実を図り、健康で元気に勉強や活動ができる子どもを育てる。
- 子ども達のメディア使用について、生活リズム調査等の結果を有効に活用し、子ども達のメディア使用の実態を的確に把握し、家庭との課題意識を共有し合いながら、家庭における「3つの約束」をしっかりと守り、長時間のメディア使用の削減等、流されない強い心を健康な体づくりを推進するとともに、学年の実態に応じた情報メディア教育を実施する。
- 体育の授業を中心とした体力を育てる教育活動を進めるとともに、特に体力の低下が見られる筋力や持久力については、日常の授業や生活習慣の中にも取り入れながら、楽しくできる体力づくりの推進を図る。また、家庭とも協力しながら、外での遊びや徒歩通学による日常的な体力づくりを呼びかけ、体力づくりをめざす。

○「チーム中央小」「チーム北地区」による組織的取組の推進

⑦チーム力を活かした学校運営を充実させる。

- 企画会議の充実により、迅速に動ける意思決定のサイクルを充実させ、学校の機能（チーム力・力あわせ）を生かした教育活動の推進を図る。
- 肯定的・共感的な子ども理解を意識した教育実践力の向上に努める。
- 教育支援委員会、終会、職員会議等において全教職員の共通理解を図ることを大切にしながら、「報告・連絡・相談・確認」と「方針・具体策・連携・相互支援」を進め、より組織的な対応を進める。
- 校内研修（授業研究・ミニ研修）、各種講演・講座、OJT、メンター研修、各種事業等を活用し、一人一人の学ぶ意欲を喚起しながら、将来の宗谷の教育につながる教師力・指導力向上を進める。
- 日々の子ども観察や交流、事例研修等の機会を通じて、子ども達のちょっとした変化も見逃さない、教職員一人一人の危機管理意識の向上と、生徒指導力の向上に努める。

⑧PTA活動（子育て）を通じた教師力、家庭力づくりを推進する。

- ウィズコロナ・ポストコロナに合ったPTA活動の見直し改善を図り、特に学級PTA組織および活動を基盤としたPTA活動を進めながら、親同士の横のつながりを組織し、子育てについて学び合い、力あわせで子育てができるようなPTAの役割を推進する。
- 「中央小5カ条」①早寝・早起き・朝ご飯②約束守って気持ちよく③ふわふわ言葉でやる気満々④

読書で心の栄養を⑤毎日続ける家庭学習)を通じて家庭との子育ての一致点をつくりながら、ぬくもりのある家庭づくり支援に努める。

- P T A 正副会長会議及び P T A 運営委員会、学校評議員会等、懇談できる機会を有効に活用しながら、めざす学校像・子ども像を共有し、より質の高い中央小教育をめざした意見交流を行い、それを教育活動に反映させる取組を進める。

⑨ P T A・地域、学校間・異校種等の外部と連携する学校づくり

- コロナ禍における教育活動の工夫を進めながら、外部講師、学習ボランティア等の地域人材の積極的導入と活用を図る。特に、中学校の乗り入れによる授業づくりを積極的に進めながら、小中のつながりを通して、子ども達の9年間を見通した学びへと進めていきたい。
- 幼保から小学校へつながるスタートカリキュラムをもとに、スムーズな接続ができる環境づくり(幼保小との連携・懇談・つながりの強化)と、北地区グングンプランの活用等、中学校へとつながる(9年間を見据えた)教育課程づくりを積極的に進めながら、未来を見据えた中央小教育を推進する。
- 北地区子ども支援ネットワーク会議を中心とした、幼保・中・高、各関係機関等と連携を継続的に進めながら、各教育機関と一致した子ども支援・家庭支援の充実を図る。

○ 「自慢の学校」「働きがいのある職場」の創造をめざして

⑩ 「新しい中央小の教育」を推進する。(コロナ禍でも、一人一人に自信を育てる取り組みへ)

- 「全校合唱」、「中央小まつり」等、これまで中央小学校が大事にしてきた取り組みについて、この時代に合わせた教育活動へと改善・継承させながら、中央小での学びに自信や誇りを持たせられる取組へと進化させる。
- 日々の授業をはじめ、児童会活動、学校行事等の中で、自分の意見や考え、自分の思いを発表する機会を確実に設定し、その活動を通して子ども達のコミュニケーション能力や、聞く・話す力の育成を充実させる。
- 学校だより、学級だより、中央小HP等での中央小っ子達の頑張りを発信しすることで、子ども達を激励してもらい、次の挑戦に向かう意欲を育てる教育活動を進め、教育の質の向上を図る。

⑪ 働きやすい職場づくりと教育の質を向上させる、働き方改革を推進する。

- 働き方改革コアチーム(兼企画会議)を中心に、組織体制や業務分担等の課題となる取り組みの改善見直しを図り、中央小に適した教育の質の向上とともに、働きやすく働きがいのある職場づくりを推進する。
- 指導方法工夫改善加配教員、S S S、特別支援教育支援員、および今年度新たに配置された算数専科教員の等)と効果的な運用を進め、担任の授業準備や子ども達と向き合える時間を確保するとともに、一人一人がゆとりを持ち、より充実した教育活動が進められる体制づくりに取り組みながら、教育の質の向上に取り組む。
- 各分掌等における活動の見直し、積極的な業務分担や業務内容の精選・スリム化、次の世代に交代できる業務の見える化を積極的に行いながら、未来につながる人材育成と教育活動の効率化を図る。
- 企画会議の機能性を発揮させるとともに、各種会議等の持ち方の工夫や効率化を継続しながら、時間の生み出しと有効活用を進める。
- 教職員一人一人の健康管理を進めながら、子ども達に向かう元気(気力)をしっかりと持ちながら教育活動を進められるよう、定時退勤日(R D)、職員体育(R T)、学校閉庁日の設定と運用を積極的に進める。
- 出退勤の状況を月ごとに可視化することにより、一人一人が自己の勤務時数を的確に把握し、次月の働き方改善につながる具体と見通しが持てるようにするため、I C T(出退勤ソフト等)の効果的活用を図る。